

令和5年度 自己点検・評価結果報告書【国際】

推進責任者：グローバル推進機構長

1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

自己点検の観点	自己点検・評価項目	実施方法	エビデンス	判定結果
グローバル化の達成状況	(1) 日本人学生の海外派遣を拡大すること	英語力基準を満たす学生数の割合を確認する。	・英語力基準を満たす学生の割合（令和4年度実績）【別添1】 ・令和4年度第9回グローバル推進機構会議議事要旨【別添2】 ・令和4年度第9回グローバル推進機構会議資料3【別添3】	適切である 理由：令和4年度の英語力基準を満たす学生数の割合が6.1%（585人/9,525人）であり、目標値5%を上回った。学生の英語力強化に向け、オンライン英語教材を導入するとともに、全学部生を対象にTOEIC IPテストを実施した。
		日本人学生の海外渡航経験者数の割合を確認する。	・日本人学生の海外渡航経験者数の割合（令和4年度実績）【別添4】 ・令和4年度第9回グローバル推進機構会議議事要旨【別添2】 ・令和4年度第9回グローバル推進機構会議資料2（抜粋）【別添5】	適切である 理由：令和4年度の日本人学生の海外渡航経験者数の割合が3.8%（358人/9,525人）であり、目標値3%を上回った。派遣学生の増加に向け、令和5年度学長裁量経費（国際力強化事業）において派遣学生への支援額の上限を引き上げた。
	(2-1) 優秀な外国人学生を増加させること	外国人正規学生数の割合を確認する。	・令和4年度外国人留学生数（正規生・通年）【別添6】 ・令和4年度留学フェア等参加実績ほか【別添7】	適切である 理由：令和4年度の外国人正規学生数が390人であり、目標値386人を上回った。外国人留学生獲得に向け、留学フェア等への参加とともに英語版プロモーション動画を制作し
	(2-2) 英語のみで卒業可能な学部コースを新たに設置すること	英語のみで卒業可能な学部コースの設置に向けた状況を確認する。	・令和5年度第1回グローバル推進機構会議議事要旨【別添8】 ・令和5年度第1回グローバル推進機構会議資料2-3【別添9】	適切である 理由：令和4年度において、工学系を中心とした減災コースを想定してカリキュラム等の検討に着手した。
	(2-3) 海外ネットワークを強化、拡大すること	海外同窓会支部の設置に向けた状況を確認する。	・令和5年度第1回グローバル推進機構会議議事要旨【別添8】 ・令和5年度第1回グローバル推進機構会議資料2-1【別添10】	適切である 理由：令和4年度において、ベトナム同窓会の設置に向け現地の同窓生と調整を開始した。加えて、タイを設置先の候補とした。
	(3-1) ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）を新たに設置すること	ジョイント・ディグリー・プログラムの設置に向けた状況を確認する。	同上	適切である 理由：令和4年度において、自然科学教育部博士後期課程工学専攻（土木系）を候補とし検討に着手した。
	(3-2) ダブル・ディグリー・プログラム（DDP）による交流学生数を増加させること	ダブル・ディグリー・プログラムによる交流学生数を確認する。	・ダブル・ディグリー・プログラムによる交流状況一覧【別添11】	適切である 理由：令和4年度のDDPによる交流学生数が14人であり、目標値12人を上回った。

2.結果総括

【優れた点】 「日本人学生の海外派遣の拡大」「優秀な外国人学生の増加」「ダブル・ディグリー・プログラムによる交流学生の増加」については、令和4年度において目標値を達成した。

【改善を要する点】 「日本人学生の海外派遣の拡大」「優秀な外国人学生の増加」については、スーパーグローバル大学創成支援事業の令和5年度末での終了を控え、目標の継続的な達成のため、限られた予算のより効果的・戦略的な活用が必要となる。